

令和6年度

福島県立医科大学大学院医学研究科

医科学専攻（修士課程）

（8月募集・12月募集）

学 生 募 集 要 項

福島県立医科大学

医学研究科医科学専攻アドミッションポリシー

本大学院医学研究科医科学専攻では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、共に新しい医学を創造し、社会に貢献する次のような学生を求めている。

● 求める学生像

1. 医学以外の専門分野を学んだ多様な知識的背景や発想を持ち、国際的な視点に立つ人。
2. 医科学の専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を持ち、地域社会に貢献する人。
3. 研究・教育・実務分野において、指導者を志す人。

● 入学者選抜の基本方針

「求める学生像」に沿った人材を選抜するために、年2回（8月・12月）入学試験を実施している。社会人を含む様々な立場の方に門戸を開放している。試験は筆記試験（小論文）、面接、成績証明書及び志望理由書により学力や相応しい資質を総合的に評価し、合格者を決定する。

安全保障輸出管理について

福島県立医科大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき「公立大学法人福島県立医科大学安全保障輸出管理規程」を定めて、貨物の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から、学生の受入れに関して、厳格な審査を実施しています。

2022年5月「外国為替及び外国貿易法」の一部改正による「みなし輸出」における管理対象者の明確化に伴い、機微技術の提供において学生が特定類型該当性を有する場合には新たに管理対象となりました。

これに伴い、本学への出願者全員に対して「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」の提出を求めることになりました。

本要項添付の「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」をご確認いただき、該当結果をご記入の上、出願書類とともにご提出ください。

※日本国籍の方を含め、一般入試出願者全員「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」の提出が必要になります。

※一部の学生においては、入学手続き前に「誓約書」の提出が必要となる場合があります。

※該当結果によっては、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、出願前に希望する分野の指導教員に相談するなど、出願にあたっては注意してください。

目 次

【学生募集要項】

1	募集人員	1
2	入試日程	1
3	出願資格	1
4	出願資格審査	2
5	出願手続	3
6	入学者選抜方法	4
7	試験期日、時間及び試験場	4
8	受験時の注意事項	4
9	合格者発表	5
10	入学手続	5
11	入学手続上の注意事項	5
12	個人情報の取扱いについて	5

【医科学専攻（修士課程）の概要】

1	目 的	6
2	構 成	6
3	授業科目の概要	6
4	学位の授与	6
5	奨学金制度	6
6	授業料等免除制度	6
7	長期履修制度	6
8	大学案内図	7
	別表1 授業科目	8
	別表2 授業科目の概要	9
	各研究分野の指導教員連絡先	12

【本研究科所定の様式】

入学願書、写真票・受験票、志望理由書、特定類型該当性に関する確認書兼誓約書、
受験許可書、研究活動歴、出願資格審査申請書、払込取扱票等（郵便局）

（以上綴じ込み）

出願用封筒、受験票送付用封筒

令和6年3月までに修了見込みの者

- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学大学院において、その教育を受けるのにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学大学院において、所定の単位を優秀な成績で習得したと認めたもの
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに22歳に達するもの

(注) 短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業者（修了者）等は、上記(10)の対象となるため、事前の出願資格審査が必要です（下記4出願資格審査参照）。

4 出願資格審査

前記3出願資格(8)、(9)、(10)により本学に出願する者は、下記「5出願手続」の前に出願資格の認定が必要となるので、次のとおり申請してください。

(1) 申請期間

8月募集 令和5年7月7日(金)まで

12月募集 令和5年11月2日(休)まで

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日、祝日を除く。）

郵送による場合は書留郵便とし、申請期間内必着とします。

（封筒表面に「大学院（修士課程）出願資格審査申請書在中」と明記してください。）

(2) 申請書類

① 出願資格(8)及び(9)に該当する者

申請に必要な書類	作成方法
出願資格審査申請書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
在学中の学校の在学期間証明書	・在学中の者のみ提出してください。
在学中の学校の成績証明書	・在学中の者のみ厳封したものを提出してください。
最終学歴の学校に関する資料	・入学資格、卒業要件、修業年限、カリキュラム等が記載されている資料を提出してください。

② 出願資格(10)に該当する者

申請に必要な書類	作成方法
出願資格審査申請書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
卒業（見込）証明書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行したもの。
成績証明書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。
最終学歴の学校に関する資料	・入学資格、卒業要件、修業年限、カリキュラム等が記載されている資料を提出してください。
研究活動歴（該当する者）	・大学、研究所等において研究に従事したことのある者は、本要項添付の用紙に記入の上、提出してください。

申請に必要な書類	作成方法
主な論文、研究発表等の写し（該当する者）	・業績として学術論文、著書、研究発表等を有する者は、提出してください。

上記のほか、必要により別の証明書等を求めることがあります。

(3) 出願資格審査の方法

申請書類により行います。ただし、必要と認めたものについては、口述審査を行います。

(4) 出願資格審査の結果通知

出願期間までに資格審査結果を郵送により通知します。

(5) 提出先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
 福島県立医科大学 教育研修支援課入試係（5号館2階）
 電話 024-547-1093（直通）

5 出願手続

本専攻を志願する場合は、出願する前（出願資格認定申請を行う場合は、その前）に、所属を希望する研究分野の指導教員に必ず連絡を取り、今後の教育・研究について相談してください。

(1) 出願期間

8月募集 令和5年7月10日(月)から令和5年7月19日(水)
 12月募集 令和5年11月6日(月)から令和5年11月15日(水)
 受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日、祝日を除く。）
 郵送による場合は書留速達とし、出願期間内必着とします。

(2) 出願先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
 福島県立医科大学 教育研修支援課入試係（5号館2階）
 電話 024-547-1093（直通）

(3) 出願書類等

次の書類を本要項添付の封筒に一括して入れて提出してください。

出願に必要な書類	作成方法
入 学 願 書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
写 真 票	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・必要事項を記入してください。
受 験 票	・縦4cm×横3cmの写真（無帽、上半身正面、無背景、出願前3か月以内に撮影したもの）の裏面に氏名を記入し、所定の欄に貼ってください。
志 望 理 由 書	・本要項添付の用紙に直接記入するか、本様式に準じてパソコン等により作成してください。
卒業（見込）証明書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行したもの。 ・出願資格(2)による場合は、学士の学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書を添付してください。 （ただし、出願資格認定時に提出済みの場合は、不要です。）
成 績 証 明 書	・最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。 （ただし、出願資格認定時に提出済みの場合は、不要です。）

出願に必要な書類	作成方法
外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書	・本要項添付の用紙を用いてください。
受験許可書	・本要項添付の用紙を用いてください。 ・現在在職中の者は、所属長の受験許可書を提出してください。
研究活動歴	・本要項添付の用紙を用いてください。
入学検定料	・30,000円 検定料を郵便払込の後、受領した「郵便振替払込受付証明書（お客様用）」を「入学願書」の所定欄に貼ってください。 なお、払込手数料は、出願者の負担となります。
在留カード等の写し	・外国人志願者は、在留カード、旅券等在留資格が記載されているものを添付してください。
受験票送付用封筒	・本要項添付の封筒（長3）に住所、氏名及び郵便番号を明記し、所定欄に定形速達料金分（重さ25g）の切手を貼ってください。

(注1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。

(注2) 出願書類に虚偽があった場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(注3) 一旦受理した出願書類及び入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。

(注4) 婚姻等により、卒業（見込）証明書等と姓が異なる場合は、戸籍抄本を同封してください。

6 入学者選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験（小論文）、面接及び出願書類の審査を総合して行います。

7 試験期日、時間及び試験場

期 日	科目名等	時 間	試 験 場
8月募集 令和5年8月4日(金)	筆記試験（小論文）	9：00～10：00	福島県立医科大学 医学部
12月募集 令和5年12月9日(土)	面接	10：30～	

※試験場の詳細及び集合時間等は受験票送付時に通知します。

※8月募集試験において定員を満した場合は、12月募集試験は実施しません。

出願前にホームページ等で確認してください。

8 受験時の注意事項

- (1) 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験本部にその旨を申し出て、再発行を受けてください。また、入学手続の際に必要なになるので、試験後も大切に保管してください。
- (2) 受験者は、午前8時30分までに試験場に集合して受験に関する指示を受けてください。
- (3) 筆記試験開始後、20分以内の遅刻に限り受験を認めます。なお、この場合試験時間の延長は認めません。

- (4) 携帯電話等電子機器は、試験会場に入る前に電源を切っておいてください。
- (5) 試験時の机上には、受験票、筆記用具及び時計（計時機能だけのもの）以外は置かないでください。

9 合格者発表

8月募集 令和5年9月21日(木)午前10時頃

12月募集 令和6年1月18日(木)午前10時頃

- (1) 本学6号館南側屋外掲示板に掲示するとともに、合格者にのみ合格通知書を送付します。
- (2) 大学のホームページにも合格者の受験番号を参考情報として掲載します。
(ホームページアドレス <https://www.fmu.ac.jp/>)
- (3) 電話等による照会には一切応じません。

10 入学手続

下記に示す手続場所にて、手続期間内に入学手続を行ってください。(詳細は合格者に別途通知します。)

- (1) 入学手続期間

令和6年1月18日(木)から令和6年2月1日(木)

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日を除く。）

郵送による場合は書留速達とし、手続期間内必着のこと。

- (2) 入学料及び授業料

① 入学料 282,000円（予定額、入学手続時に納付）

② 授業料 年額535,800円（予定額、毎年4月、10月の2回に分納）

※ 入学料及び授業料については変更されることがあります。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

- (3) 入学手続場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

福島県立医科大学 教育研修支援課医学部教務係（5号館1階）

電話 024-547-1095（直通）

11 入学手続上の注意事項

- (1) 受理した入学手続に要した書類等及び入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。
- (2) 期限までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を完了し、入学を許可された者であっても、大学等を卒業（修了）できない場合又は学士の学位を授与されない場合は、入学許可を取り消します。

12 個人情報の取扱いについて

出願の際に提出された入学願書等の書類に記載されている氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報、入学者選抜の実施、入学手続、入学後の奨学・厚生補導及び修学指導に関する業務を行うためのみに利用します。

大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）の概要

1 目 的

本専攻科は、医療の高度化、学術化の傾向を踏まえ、医学以外の専門分野を学んだ多様な知識や発想を持つ人びとに、集中的に医科学を教授することを目的とします。

専攻内に2つのプログラム（総合医科学プログラム・社会科学プログラム）を設け、それらの学術的な知識を統合させ、医学・医療に関連した多彩な分野で活躍できる研究者・教育者と高度な専門職として活躍する人材を育成します。

(1) 履修概要

各プログラムにおいて、必修科目は別表の必修教育科目群から履修します。入学後は各講座に所属し、必修科目、選択科目、医学セミナーを受けるとともに、修士論文作成に向けた特別研究・特別研究演習を行います。社会人を含む様々な立場の方にも受講可能なように、より柔軟なカリキュラムを実施しています。

総合医科学プログラム	解剖・生化・生理・病理学などの基礎医学を修得できるように医学の基盤科目群を必修科目とし、実験系を中心とした特別研究・特別研究演習を行います。 主に実験系の医科学分野の研究・教育等に携わる人材を育成します。
社会科学プログラム	疫学・統計・行動科学など社会科学の基盤科目群を必修科目とし、予防医学、公衆衛生学、疫学、法医学、心理学、統計学などの視点を特別研究・特別研究演習として実践的に学びます。 主に人を対象とした社会科学分野の研究・教育等に携わる人材を育成します。

2 構 成

(1) 課程及び修業年限

本専攻は、修業年限2年を標準とする修士課程です。

(2) 授業科目

別表1のとおり

3 授業科目の概要

別表2のとおり

4 学位の授与

2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、独創的研究に基づく論文を提出してその審査に合格し、かつ、最終試験に合格した者に対して修士（医科学）の学位を授与します。

5 奨学金制度

大学院学生に対する日本学生支援機構の奨学金制度があります。

また、日本学生支援機構の奨学金を利用できない場合は、本学が独自に設けた奨学金制度を利用することができます。

参照 日本学生支援機構 <https://www.jasso.go.jp/index.html>

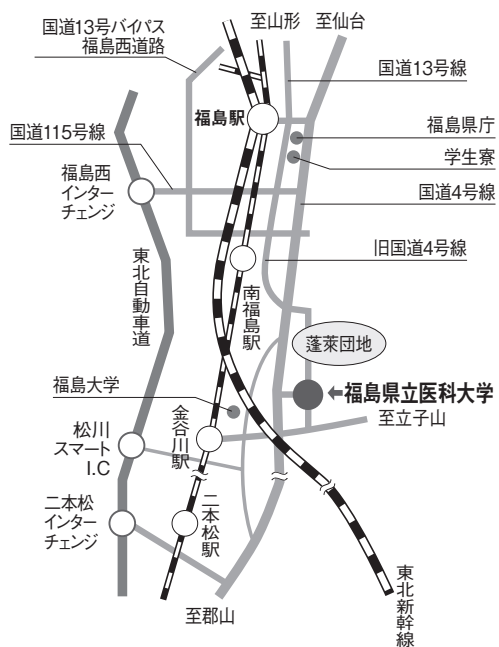
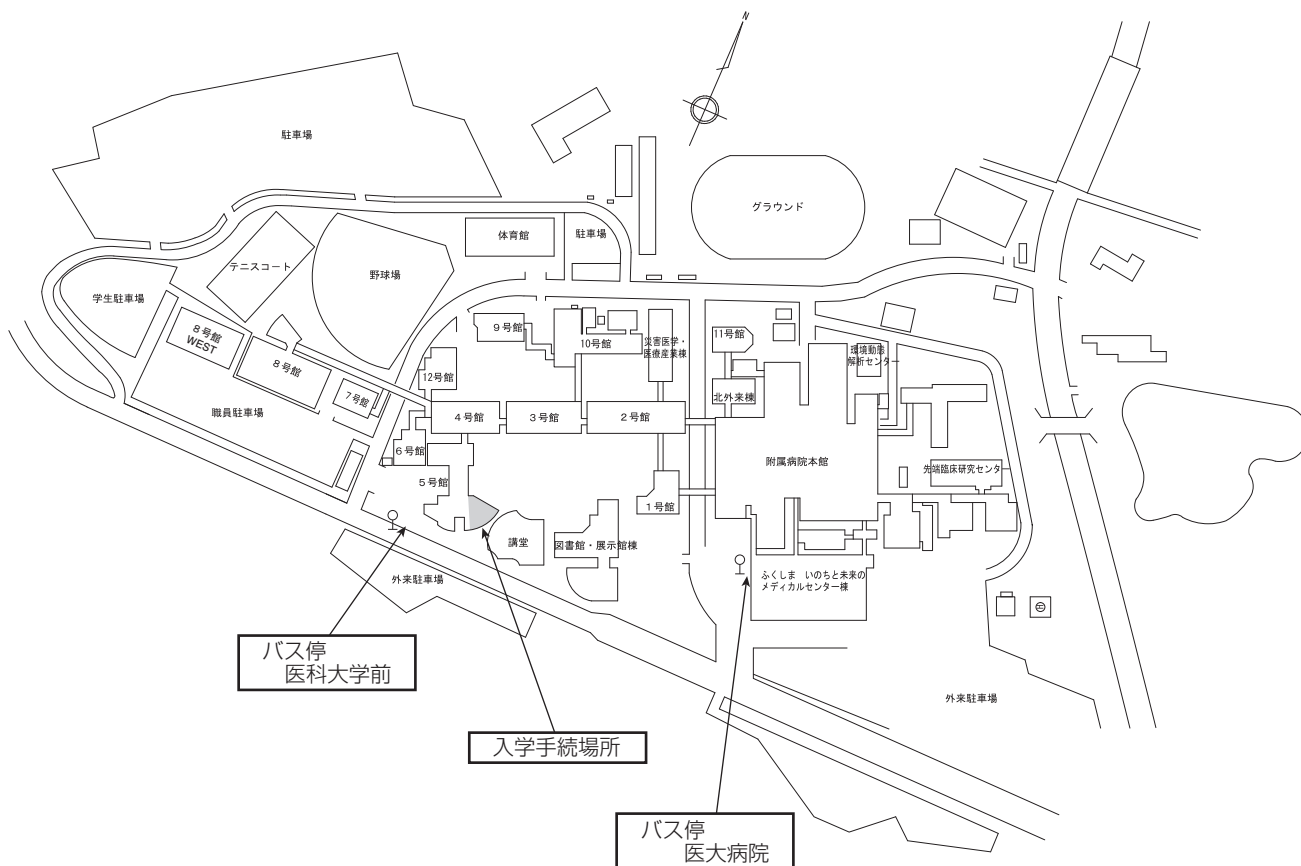
6 授業料等免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる学生に対しては、申請により授業料等を免除できる場合があります。

7 長期履修制度

学生が職業を有しているなどの事情により、本医科学専攻の標準修業年限の2年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的履修を認めることができる長期履修制度を設けています。

8 大学案内図



交通案内

JR 福島駅東口バスターミナル福島交通バス「バイパス経由医大」行き乗車、「医科大学前」下車徒歩1分。(所要時間約30分)

入学選抜等に関する照会先

福島県立医科大学

教育研修支援課 入試係

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024-547-1093

FAX 024-547-1989

別表 1

授 業 科 目

◎ 必修科目

授 業 科 目		単位数	総合医科学 プログラム	社会科学 プログラム
必修 教育 科目	医科学概論	1	◎	◎
	国際コミュニケーション学	1	◎	◎
	生体構造学	1	◎	
	生体機能学	1	◎	
	病態病理学	1	◎	
	代謝栄養学	1	◎	
	医学研究方法論	2	◎	
	医学研究デザイン論	1		◎
	医学研究デザイン論演習	2		◎
	疫学・統計の方法論	1		◎
	疫学・統計実習	2		◎
	行動科学	3		◎
	計測・分析学	1	◎	
	医学統計学	1	◎	◎
	医療工学	1	◎	
	放射線医学	1	◎	
専門 研究 科目	地域と環境	2		
	食物と栄養	2		
	血液と循環	2		
	免疫と生体防御	2		
	発生と再生	2		
	脳とこころ	2		
	分子と情報	2		
	臨床研究デザイン学	2		
	臨床データ解析学特講	2		
	臨床データ解析学演習	2		
ヘルス・サービスリサーチ	2			
特別 研究科目	特別研究（研究指導）	8	◎	◎
	特別研究演習（研究指導）	4	◎	◎
共通 必修科目	大学院セミナー	2	◎	◎

※ 専門研究科目については、1～2年次までに2科目以上を受講

別表2

授業科目の概要

区分	授業科目	担当教員	概 要
必修 教 育 科 目 群	医科学概論	コーディネーター 教授 西田 満	様々な学歴を持つ学生が共通に必要なとする、医学研究の基礎となる方法と、修士課程での学習基盤を習得する。
	国際コミュニケーション学	コーディネーター 教授 藤平 明彦 アントリユー	医学や生命科学について、英語で読み・書き・聞き・話すために必要となる基本的な考え方と具体的な表現やスキルを演習を通じて学び、身につける。
	生体構造学	コーディネーター 教授 和栗 聡 准教授 本間 俊作	人体を形成する細胞、組織、器官の正常構造、およびそれらの形成過程（発生）を学び、機能との関連を考察する。
	生体機能学	コーディネーター 教授 狭間 章博	人体における様々な臓器（心臓、呼吸器、消化器、腎）の機能を細胞・分子レベルから個体レベルまで学び、それぞれの臓器が生体の生存においてどのような役割を果たしているか理解する。
	病態病理学	コーディネーター 教授 千葉 英樹	病気の原因（病因）と生体防御（免疫）の両側面から病変の成り立ちや病気の発症メカニズムを学習する。
	代謝栄養学	コーディネーター 教授 西田 満	ヒトの各臓器は、タンパク質、糖質、脂質などの栄養素を固有の代謝経路により異化あるいは同化している。この過程は酵素レベル、遺伝子発現レベルなどのさまざまな調節を受けている。 この調節機構と代謝経路の概略を学び、ヒトの生理的また病理学的な代謝の背景を理解する。 医学研究の基礎となる代謝栄養学を理解するために必要な、基本的な知識を概説する。 1) タンパク質やその構成要素としてのアミノ酸 2) 糖質化学の基礎である単糖と多糖 3) 生体膜や貯蔵エネルギーとしての脂質などについての構造や代謝の基礎知識を確認する。
	医学研究方法論	コーディネーター 教授 小林 和人	医学、医療のさまざまな分野で必要となるさまざまな実験技術について、その原理と応用を理解する。代表的な実験技術について、講義と実習を有機的に組み合わせて学習する。
	医学研究デザイン論	コーディネーター 教授 福島 哲仁	医学研究を始めるにあたって、どのような研究をどのように実践していくのか、最後のアウトカムも想定した研究デザインの組み立てが重要である。これから初めて医学研究に取り組むにあたり、医学研究デザインの基礎を学習する。
	医学研究デザイン論演習	コーディネーター 教授 福島 哲仁	医学研究デザインの演習として、具体的に研究テーマ（目的）の決定、仮説の立て方、研究方法や研究対象者の選定、測定尺度、調査項目等について演習形式で学習する。
	疫学・統計の方法論	コーディネーター 教授 安村 誠司	疫学と統計は、集団の健康状態を把握するための「検査方法」と捉えられる。疫学はデータの収集、統計は収集したデータの分析を行う方法論である。自分でデータを収集して分析を行えるようになるための、疫学と統計の基礎知識を学ぶ。
	疫学・統計実習	コーディネーター 教授 安村 誠司	「疫学・統計の方法論」で学んだ基礎知識を、地域や臨床の場で応用するための、実践的な技術を身に付ける。具体的には、調査票の作成やデータ入力・管理、適切な分析方法を、演習を通じて学ぶ。
	行動科学	コーディネーター 教授 永福 智志	豊かな人間理解のためには行動（behavior）について知ることは重要である。行動に関する基礎・応用科学が行動科学（behavioral science）であり、行動科学には認知心理学、学習心理学、臨床心理学など広範な学問領域が含まれる。また行動科学は近年、神経科学と融合しつつあり、行動神経科学や認知神経科学と呼ばれる新たな研究領域を生み出している。 本講義の前半では行動科学の基礎として、認知心理学（浄土担当）および学習心理学（永福担当）の基本概念について概説したあと、神経科学との境界領域である認知神経科学・行動神経科学の最近の状況について解説を加える（高橋担当）。 後半では行動科学の応用として、臨床心理学の代表的な理論を取り上げ、その基本概念と治療の方法論について解説する（三澤・竹林担当）。

区分	授業科目	担当教員	概 要
必修教育科目群	計測・分析学	コーディネーター 教授 開 康一	分子レベルでの計測技術、分析技術は生命科学の基盤技術の一つである。本講義では分離分析／網羅的解析／分子機能解析／イメージングという4つの視点から計測と分析の今を概観する。
	医学統計学	コーディネーター 教授 中村 信裕	統計学は、一見不規則に見える現象から法則性を見出し、直観による判断が客観的事実として正しいかどうか分析する学問である。この授業では、医学、医療の様々な分野で収集したデータを統計的に処理するために必要となる基礎概念、基礎事項を学習する。
	医療工学	コーディネーター 教授 丸橋 繁 教授 藤井 正純	医療技術の進歩は創薬領域に限らず、工学技術との連携によっても革新的発展を遂げている。本講義では医療工学分野について以下について学習することを目的とする。 1. 医療における工学技術の必要性について疾患病態論との関連性を含めて理解する。 2. IT 技術を含めた近年の医療工学の現状を把握し、本学における医療機器開発の実際を例として、医療機器開発のコンセプトと具体的プロセスについて学ぶ。 3. 先端的な医療工学の一端に触れ、医療技術の進歩について学習する。 4. 医療現場における工学技術の応用について、演習等によってシミュレーションを行い、理解を深める。
	放射線医学	コーディネーター 教授 伊藤 浩	放射線医学は放射線から身を守るための学問分野と放射線を医学に利用する学問分野に大別され、前者には放射線防護、緊急被ばく医療が、後者には放射線画像診断、放射線治療が含まれる。本授業科目では、放射線から身を守るための学問として、放射線計測や放射線防護の基礎、放射線の取扱いに関する規制について学習する。さらに、放射線を医学に利用する学問として放射線画像診断や近年進歩が著しい分子イメージング分野、粒子線治療などの放射線治療や核医学治療について、最近の進歩も含め理解を深める。
選択科目群（隔年開講）	地域と環境	コーディネーター 教授 福島 哲仁	ヒトの健康は、身のまわりの環境の影響を受け、地域社会における生活環境は重要である。一方、健康問題を解決していくためには、社会環境として地域は重要であり、その中で展開される健康政策、環境行政の整備、さらには法医学の視点からの実践的アプローチが求められる。
	食物と栄養	コーディネーター 教授 西田 満	ヒトは活動エネルギーや生体構成成分の材料を食物により得ている。食品中の三大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の代謝過程を中心に、その代謝の相互関係やホルモンによる調節機構を系統的に学ぶ。医学研究の基礎となる代謝栄養学を学び、その病理学的意義を学習する。
	血液と循環	コーディネーター 教授 挾間 章博	本講義では、体液、脈管の構造と機能、心臓の構造と機能、循環系の自律神経調節、病態における循環生理学、循環系における薬理学を学び、細胞・分子レベルから人体機能までの広い血液・循環に関する知識を身につける。
	免疫と生体防御	コーディネーター 教授 関根 英治	免疫とは感染に対して抵抗性を示す能力である。免疫には生体に生まれつき備わっている自然免疫と、生後に特異性と記憶を特徴とする獲得免疫とがある。これらはお互いに関連し、生体に侵入した病原体を排除する。免疫の破綻は免疫不全症やアレルギー性疾患、自己免疫疾患をひき起こす。このような免疫学の基礎となる物質（抗体・補体・サイトカイン・ケモカインなど）や、それらを作り出す免疫担当細胞（T細胞・B細胞・マクロファージ・樹状細胞・顆粒球など）、その相互作用の機構やその破綻によってひき起こされる疾患について学習する。 一方、生体に侵入する微生物は宿主の免疫による排除に打ち勝って疾患を起こす。この微生物の機能を学び、寄生体の側から見た生体の防御機構を学ぶ。
	発生と再生	コーディネーター 准教授 本間 俊作	再生医療に注目し、まずその基礎となる器官個体発生のメカニズムについて、分子、細胞、個体レベルで学習する。その上でこの分野の研究手法や医療における実用例、倫理的な問題などを学習する。
	脳とこころ	コーディネーター 教授 小林 和人	脳機能の基盤となる分子や細胞の役割、様々な行動を司る脳内メカニズムについて解説するとともに、脳機能の障害と関係する疾患の原因や病態、予防や治療の現状について概説する。

区分	授業科目	担当教員	概要
選択科目 群（隔年開講）	分子と情報	コーディネーター 教授 西田 満 准教授 本間美和子	多細胞生物は、多種多様な細胞を一つの有機社会として統合するシステムを有する。神経系やホルモンなどの液性因子系がその例であるが、これらを理解するため、基盤となる神経伝達物質やホルモンなどの作用メカニズムを分子細胞レベルで学習する。
	臨床研究デザイン学 (注)	コーディネーター 准教授 栗田 宜明	臨床研究を行う際に必要な「臨床研究デザイン学」の基本を理解して、臨床研究計画の作成の基本的な部分が独自で設定できるようになることを目標とする。臨床上の疑問の構造化・モデル化、測定概念の変数への変換、変数測定法の評価、比較の質を高める方法など、計画段階から論文執筆に至る前に必要な知識を系統的に学習する。
	臨床データ解析学特講 (注)	コーディネーター 准教授 栗田 宜明	臨床研究の計画の際、研究のデザインに対応した適切な統計的解析方法を選択しなければならない。本講義では、臨床データ解析で用いられる基本的な知識を系統的に学習し、研究計画の際に解釈を選択できるようになることを目標とする。
	臨床データ解析学演習 (注)	コーディネーター 准教授 栗田 宜明	臨床研究データの基礎的な解析を独力で実行できるようになるための、ハンズオン演習講義である。統計解析ソフト Stata を使用して、解析方法やデータマネジメントを系統的に学習する。結果の解釈を適切に行えるようになることも目標としている。
	ヘルス・サービスリサーチ (注)	コーディネーター 准教授 栗田 宜明	リアルワールドにおける医療の質や管理が着目されるようになり、治療や診断の評価とフィードバック、医療の質指標、医療経済評価、患者中心のアウトカム指標評価などの重要性が増してきた。本講義では、これらの評価を行うための研究の計画と実践について、実例を通して理解することを目標とする。
特別研究科目	特別研究 (研究指導)	研究指導教員が個々の学生の希望・適性に応じ、研究基盤となるテーマを設定し、教育・指導を行う。 修士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、実験についての体系的な知識・技術の修得を目的とした科目である。学生は、修士論文の作成過程で研究の実際を学習する。	
	特別研究演習 (教育指導)	研究指導教員の属する研究室でのセミナー等に参加し、最新の技術や知見を理解し、実験計画の立案、実験データの解析、評価、論文作成などに関する実践的研究方法、その他を習得する。	
必修科目 共通	大学院セミナー	本大学院は、特別講義等のセミナーを開催し、必修科目に位置づけている。多分野における最先端の知識を広く学ぶ。	

(注) 「臨床研究デザイン学」、「臨床データ解析学特講」、「臨床データ解析学演習」及び「ヘルス・サービスリサーチ」は、毎年開講しています。

* 本表に記載の内容は変更になる場合があります。

* 出願の際は本学ホームページ等で最新の状況をご確認ください。

各研究分野の指導教員連絡先

教育研究分野	担当講座・部門	職	氏名	電話	メールアドレス
神経発生生物学	神経解剖・発生学講座	教授	八木沼洋行	1116	anatomy1
細胞組織学	解剖・組織学講座	教授	和栗 聡	1124	anatomy2
細胞生理学	細胞統合生理学講座	教授	挾間 章博	1132	physiol1
神経生理学	システム神経科学講座	教授	永福 智志	1135	physiol2
生化学	生化学講座	教授	西田 満	1141	biochem1
免疫学	免疫学講座	教授	関根 英治	1148	immunol
微生物学	微生物学講座	教授	錫谷 達夫	1158	suzutani
病態病理学	基礎病理学講座	教授	千葉 英樹	1169	p2
予防医学	衛生学・予防医学講座	教授	福島 哲仁	1174	t-fuku
実践疫学	公衆衛生学講座	教授	安村 誠司	1180	yasumura
循環病態学	循環器内科学講座	教授	竹石 恭知	1190	takeishi
血液内科学	血液内科学講座	教授	池添 隆之	1192	hemato
脳神経外科学	脳神経外科学講座	教授	藤井 正純	1268	fujim
検査医科学	臨床検査医学講座	教授	志村 浩己	1918	rinken
細胞制御学	輸血・移植免疫学講座	教授	池田 和彦	1536	kazu-ike
放射線健康管理・ コミュニケーション学	放射線健康管理学講座	教授	坪倉 正治	1111	tsubo-m
医用ナノ化学	総合科学教育研究センター	教授	田辺 真	1367	m-tanabe
細胞分子情報学	生体物質研究部門	准教授	本間美和子	1660	mkhomma
先端脳科学	生体機能研究部門	教授	小林 和人	1668	kazuto

※ 電話番号の局番「(024) 547」を省略してあります。

※ 各メールアドレス後の「@fmu.ac.jp」を省略してあります。

※ 上記表中の分野は令和5年4月1日時点のものです。

出願の際は、各分野及び指導教員の最新状況を、本学ホームページでご確認ください。